

編集委員会からのお知らせ

日本公衆衛生雑誌編集委員長
上 原 里 程

会員の皆様には、平素より本誌の発行に多大なご協力をいただき感謝申し上げます。

昨今の繰り返す自然災害への対応など様々な公衆衛生の課題が発生する中、研究成果や日々の実践について発信している本誌の役割は益々大きくなっているのではないかと考えております。

本稿では、2024年に発刊されました第71巻 1 号から12号までの概況と編集委員会の主な取り組みについてご紹介します。

1. 第71巻の概況

掲載数52編で論文種別の内訳は論壇 1 編，総説 3 編，原著24編，公衆衛生活動報告 5 編，資料16編，特別報告 1 編，会員の声 2 編でした。第70巻からの推移をみますと，原著，公衆衛生活動報告および資料はほぼ同数でした。1 号あたりの掲載数の範囲は 3 編から 6 編でした。なお，2024年 1 月から12月までの新規投稿数は139編，審査日数（該当月に投稿された新規投稿論文の「投稿から初回審査結果通知まで」の平均日数）29.3日でした（いずれの数値も2025年 1 月 7 日現在）。2023年の新規投稿数は108編でしたので，2024年は30編程度の投稿数の増加がありました。引き続き会員の皆様から多くの投稿を頂けるよう努めてまいります。また，査読委員の先生方には審査依頼のほとんどをお引き受け頂いておりますので，迅速に審査を進めることができます。査読委員の先生方のご協力に心より感謝申し上げます。

2. 編集委員会の主な取り組み

編集委員会では，これまで同様に，常時のメーリングリストによる審査に加え隔月で編集委員が顔を合わせて議論する場を設けており，審査に関連する課題や優秀論文賞，ベストレビュー賞の選考・選出，投稿規程の改定等について議論しています。昨年実施した規程の見直しとして，Supplemental data（電子付録）をオンライン掲載することに関する規定を追加しました。昨今の医学雑誌編集の動向を踏まえながら，会員の皆様にとってさらに投稿しやすい雑誌になるよう，投稿規程の見直しを継続的にこなしていきます。

3. 会員の皆様へ：積極的なご投稿のお願い

本誌では質の高い原著論文だけでなく，現場での活用が期待できる公衆衛生活動報告など，公衆衛生の発展に寄与できる論文を数多く掲載していきたいと考えています。そのための取り組みを編集委員一同で議論しながら進めてまいりますので，多くの論文をご投稿くださいますよう，よろしくお願い申し上げます。